

被災地派遣レポート〈第14回〉

下水道局北部下水道事務所 豊田 英二さん

■業務内容

6月14日より義援金等申請受付業務にあたった。派遣期間中の受付件数は、日当り十数件ほどで推移していた。100か日法要があり、この日の翌日は、遠方からの申請の方が多く再提出を含めると30件を超えていた。千葉県、名古屋市職員、高田市職員と共に、これまでに受付けていた書類の整理・添付資料の追加、分類作業にも着手し支払い事務の推進に努めた。17日から、税務課への2名派遣により、3名が交替で窓口対応を行い、書類整理も同時に行った。

税務課での業務は、高速道路無料化の伴い、り災証明の発行業務が多忙となったので、り災証明、各種税務証明の発行、軽自動車課税停止手続き等に従事した。

税務課での業務も多忙を極め、人手が足りないとの報告があり、追加人員要求に備え1班からの人員の融通も検討した。これらの税務課業務には、主税局職員が対応したので、市から感謝された。

■現地状況

仮庁舎にて義援金受付業務。新仮庁舎にて税務業務を実施した。仮庁舎には、給水設備がなく給水車が給水している状況である。電力も不足しており一部電力は発電機にて供給されている。受付場所は、半透明の仮設屋根の下にあり、晴天時には、肌を刺す暑さである。室内も、空調設備はなく、仮設ハウスで室温が上昇し、こまめな給水が必要であった。

被災地の状況は、がれきの撤去・収集が進んでいて、主要道路の通行は、可能である。仮設庁舎近くの、高田第一中学校の麓から海側を望むと、気仙川よりは、がれきの撤去が進んでいる。しかし、大船渡よりは、重機による収集中でがれきが散乱している状況である。また、民有地にあるがれきもいまだ手が付いていない場所もある。

■派遣を終えて

わざわざ東京から来たことに対して、感謝の気持ちを表してくださる方が多かった。

被災者の方の支援業務として派遣されたが、宿泊地の方や、送り出していただいた職場の方々の支援を受けての派遣業務となり、関係の方々に厚く感謝いたします。



〈陸前高田中学校付近〉



〈仮庁舎 右側に発電機が設置されている〉